13
1961
83

荀氏石經
經說摸擬夢[illegible]
[illegible]
[illegible]
大德
遠
2056
+22

へ13
1961
83

怪談摸摸夢字彙

○化物虚字之部

娓 女ニ尾ノアルハ キツネトヨム

恟 リッシンベンニツノハ 心ノ鬼ト云字十リ

顥 カシラノ上ニ血ノアルハ カフハト云字デモアラフカ

颪 シワケハナセトイツテミサツセヘクビスナカラカセヲ引ケ 分カサカヘニクビスヂト云字ヲカキテミコ入道トヨム

領 シキヘンニカヒト云字ハ子コトヨム

晶 コレハクレガミテモ三ツ目 入道ト云字十リ

興 井ノ中カニ血ト云字ハタレガミテモサラヤ手トヨマフ

組 イトヘンニ目ト云字ヲカキテ コイサギトヨムソノ心ハ アンジン町デキイテミナ

緒 イトヘンニクヒハ ロクロクビ十リ

女 女ト云字ノ白キハ ユキ女トヨム

女 女ト云字ノコシカラ 下モクロイハユウレイトヨム此字ハ モト評判記ノ上ノ字ヨリハジマル

忌 ムネノウヘニ手ヲオケバ ウナルト云字十リ

惑 リッシンベンニマヨフ トカキテ ケモノ トヨム化物トミルハコンナ文字カ厲 オホカタ忍ノ迷十リ ニモアロス アイナア

享保三年癸亥孟春

山東庵京傳戯著

○見越入湯

みこし入湯は釜のうらおやぢの
やうなるものをふるのかく
ろくろくめ紙うちもゆどんへ
せもぐれぐろのそそもかの
のうりあそもそでは湯さぐ
はいえるそれでなるの
こもときるかくくる
ぐーはくろんさ
ここまでとあ紙ぬれ
まくくとい一紙ふまそ
おのづくくろひぐるぐく
なるありとあふるの
るりかくるるのとるぐ
ここくこてふくくまるとと
ゆあふこ紙紙みくく入湯
とあづけくやうちぢうぐ
こくぐれるる

●ありくびこ千丈
見越ふくかくの
ごくくるくくとく
ねもぐこくぐ

「ふ」おやぢありを
めーぐあのへりじの
やうにのぐくて
そそくる紙
ふくしん

「こくくふくくとのぐくが
ありものひぐそこくぐん
あるまきれと二丈天人をるぐん
なるまん
かるさりりんでらまーやあるの

○恪氣の角

えんさめはのいえりりり
くあされくくえれくくぐ人
のあやくりやくるぐくくれさて
てくくさくくはのるるしん女
ぐんきくくくはるるてん
あのれひざのるふれるる
てきくくりりくせれまくふ
あるーはのえいえくくを
くるぐりるーくくぐあくくー
ていくれくくくくえれのけく
あくくるいそぐくくく
りれくくくあくれひくれく
くひれまくるたくけあくく
ごのくれせたくりひあくく
やくくりくるるくれ
ぐるりるるんれ
あくけくくす
れそくくーれ
ぐけくものかり

「あくくくめーくへ本まあひのれいまくぐる
えくくれるるくくそのてれくくくくん
まくるれのひあくくれくくくくん
くくくんれはれ
けくーー

ありふりるさあぐく
ゆくのぬりぐくで
くるーやくいきのか
あまくくくくぐんへ
かくあくれそくくれ

○古錢場の火

此ところいむらーよくぞう宇都宮
しゅうがたてこのしゅうぞうろ
乃「藤」ののみなうとんざる利よくの
川原の一帯はちぐくのそくしゅん
してたやくせんのふちふまりむりん
ぜうぶまんりくして一けーりんをーふ
もんぐのこーびーうちぶーしこれ

ふるげの古錢

いまもあるのふる
よるぐつめ
ふりーこれ
火りえく
あしら一分
こひーやナ
ヒゥドロくく
くくこるこ
さけぶ
土人乃
ものぐろ
ゐるも

○のうらく息子

のうらくむすこハ年ごろのとふうとくもんこそこ
のーこーこーうてせんどこーこ
きろをさだけをのなこ
こーでふかねんぐくーこ紙
ちーぶーつのふーこーよろこる
ねやちのやせこをあてをーこ
このねのこをあてをーこ
少くむべーいまーしんべん
だけものこり

・古人業楊庵光の
さと一寄ふ
○毋のらく父乃をこそ
こーしーり秘
をこりぐくーふこれ
なーこ稼ば
こーるをこ此ぐけのあ
こーるべーし

「おーふくさんのそひ
ーこーかあぢがするこれうーこ乃
あぶーとるるまーしーをうあくまの
ねーふーハやくさんの乃こーであーぐ
くさんかーしーこーでしこうくさま
のあぶーハこーぐるハこ

「ふーハこんぐんの
ふーひーをーこ
よくいーこ
んーご
ねのれいこ
ふるーこ
ねーこ
もーぐーこ
ふーるーこ
ーしーこ
もんぐんの
ーこーハ
ーあこ
ーしゃ
ーく

○こんやくの幽霊

こんやくのゆうれいはいろいろ人のいろを
ものとどたぐるものくるものくるくるり丸く
なるのくくくふるりてまるくるいそる
ろのそうごつくひくうのうず
初くんの化物年丑を
ものてをさまんざ
ちぐろ
いろ丸石
ちり
あるく人の四
こんやくゆうれいは丸
ものふくけのくとこれ
ものふさろうでさくま
とくうくしこをぬくれ
くくくくりそれざ
りくんやくい
ものくいまそれ
くりまどといふ
ちりぬやいるやと
ちくれ

おでん
あんどん

いろ〳〵ものやくしこ小あくて
くやくくりくんくくやくろん
あくくていま
にいくじの
のくくふ山
くくくて
ようくふく
ものくくが
くくくて
くくくんく
くくくくり
くくくくり
くくくくり

○壁に耳
「此女十二ぢんのうつくしさをもつてゐるといふまでもなく

怪談摸夢字彙
京傳作
中
鳥重
癸亥新板

○船幽霊

永久馬史曰むかし
青銅三年くらゐ
寒念佛

○邪魔わ〜〜

上戸ウ先ヘいに非ざるたらけ先ヘ
はわらんぶり下戸ハてどくのりん
うでいうことつどはわみうけ
まーこまやまわしこうけうのハ
ことろりひーづぶ六孫さうん〜
いあんのりうどけどうこの
まんうえんにたんぐのふろ山く
うーれ石田の山くうーろろ
いくちひうれ五ひつけうろる
異獸うりのうまくふうろくくう
とまうこうこうこうあうろと
ろうやうさわうきんの
ぎうまとーてうろ
うんゆをうこれいうこと
うくーじゃまわうーと
うろく

「おうこうろふまうまて
うーうまーこうこうの
ううんけうくうとうをて
おうわうけまん
伽利とぐーん

「ぐうのうんぐ
ぐとぐんぐ
ごーてのの
ぐうけうの
ぐうとりの
ぐうのうの
ぐうのうの
ぐうのうの
ぐうのうの
ぐうのうの

○山水天狗

山あてんぐのーうーう
ぐむーてんぐのうう
むーうーうーうーむ
ぐうーうーうーうーの
ぐうーうーうーう義
ぐうーうーうーう義
ぐうーうーうーう義

○飛花鮮
源氏流観花會
八島菴
社中
横行
○大磯のくけ地蔵
立澤
鳴

○欲路首

○屁の玉

○ 多びん女
へびん女はたんぐのふすまうしろ
ぐしの女をそれ
ぞれ〜てびけものるうわきゆふ
ゆうぐ〜
あやらふつらかずづ〜まて
ちりはのさうれの
ぐ〜くちとくるをてらみそりのぐ〜
つるふけいかうとうひつびをてふぐ
えてあめかりあしふ
ふこまをこと
えてあんぐん
のゆうさんると
つぎのの成
ちりけてもいよぐり
みまろひるまもぐる
どうろのもとけ
ぐ〜
ぐやおりくんそ
和成ぐをのひびき
あうとうぐ〜のぐ〜
ふふむ〜ひうる
おやのいんぐ
よりも
こんな女成おさあてうる
だんるるいんぐなり
ぬぐし
そ色く人ぐの
しろのすりこ本
ちちてどうもちの
多人ぐるぐさ
たとけぐ

怪談摸摸夢字彙

京傳作 下

蔦重

癸亥新板

○五つまへ小僧

これもへび女とはちがうてこれもの
ものしりのふやけどちらさ公ひてやうひ
そろぞんとかうこせまいあつとうるよるハ
ふつまへうわ稲ふりとをるゆゑふふつまへ
ふをうこをろくこのぐのあぐんをう
どのうをとぬいてうりざわのふぜんを
ぜうめたぐさしのうのうひとを
ふをうをうをふをりつい井やの
いんぐをうり此をうかをのうの
をつふたんをとのをえいんぐを
をうふくををといんをの
ふうあいををえ
ふくををく
ろくをんをんじをう
ををる
ゆ
こををう
ををへ
ゆをよへひ女の
つをへいてて
いをーをうん

まづてんぷうぶせーあて
それをうをひと
をざ
まーゆう

あのをんじゆうでい
へうをうをーをとぬ
をんじゆうをつ
まへ
をくらち
あんど

○氣の車

○番頭空屋敷

○質の亡魂

山崎宗鑑

十二

○戲鳥

西山宗因

万八大平記ニ曰昔鳥羽の繪ノ御時御墨ノ棚の上ニ
よりて戲鳥いでいろ
まぢくしあるて一名と雷木鳥と
ひぐくふうて

○ヘマムシヨ入道
ヨ
マムシ
帳箱
○金玉

○節鬼
酒
京傳店

醒世老人 京傳戯作

讀書丸

清覺世道人傳方

一包十五粒入代賣永五分

○第一きそくをまもるべし

○心賢きをもつとも

○乃中ものしらぬ人

○ものしらぬ人

千秋万歳めでたしく

賣弘所 江戸 京傳店

15